

令和元年度 第12回県政参画電子アンケート
「鳥取県子どもの貧困対策推進計画」の改訂に関するアンケート
結果概要

1 調査概要

- テーマ 「子どもに貧困対策への県民意識」に関するアンケート
- 実施期間 令和2年2月14日～2月25日
- 対象 県政参画電子アンケート会員 687名
- 回答数 500名(回答率 72.8%)

2 目的・概要

県では、平成27年3月に「鳥取県子どもの貧困対策推進計画」を策定し、施策の方向性を位置づけ、子どもの貧困対策を総合的に推進してきたところです。

この度、第一期計画が令和2年3月末で終了するにあたり、これまでの成果及び分析を踏まえて、新たに第2期(令和2年度から6年度の5年間)計画として改訂することとしています。

今回のアンケートは、会員の皆さまの子どもの貧困対策についての意識や行政に対する意見などをお聴きし、計画改訂及び取組の推進に役立てていくことを目的として実施しました。

【子どもの貧困対策とは】

子どもの現在及び将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、全ての子どもが心身ともに健やかに育成され、及びその教育の機会均等が保障され、子ども一人一人が夢や希望を持つことができるようにするため、児童の権利に関する条約の精神にのっとり、実施される対策。

鳥取県子どもの貧困対策推進計画 第二期(案)の概要

<趣旨>

児童の権利に関する条約の精神にのっとり、現在から将来にわたって、全ての子ども達が夢や希望をもって成長していける鳥取県を目指して、地域や社会全体で子どものことを第一に考えた貧困対策を充実・強化し、市町村や様々な機関と連携して包括的に推進する。

<計画期間>

令和2年度から令和6年度まで(ただし、期間中であっても必要に応じて見直す。)

<主な改訂内容>

- (1) 新たに3つの基本方針を定め、「教育の支援」「生活の安定に資するための支援」「保護者に対する職業生活の安定と向上に資するための就労の支援」「経済的支援」の4分野における施策を推進する。

- 【基本方針】
- 親の妊娠・出産期から子どもの社会的自立までの切れ目のない支援の推進
 - 支援が届かない又は届けにくい子ども・世帯の早期の把握および支援の推進
 - 市町村や様々な機関と連携した取組の推進

- (2) 本県の地域実態やニーズを反映し、本県独自施策により取組を一層強化

<鳥取県における独自の子どもの貧困対策(主なもの)>

経済的負担軽減策	<ul style="list-style-type: none"> ○私立中高校生への授業料等支援 ○高校生の通学費助成 ○フリースクール等に通う児童生徒への通学経費支援 ○小児(18歳まで)医療費助成
地域と連携した支援・取組	<ul style="list-style-type: none"> ○こども食堂などの子どもの居場所の拡大・取組充実 ○成育ステージ(乳幼児、学齢期、卒業後)に応じた連携体制構築 ○地域と行政が一体となって支援の必要な家庭・子どもへ「支援を届ける」アウトリーチの推進

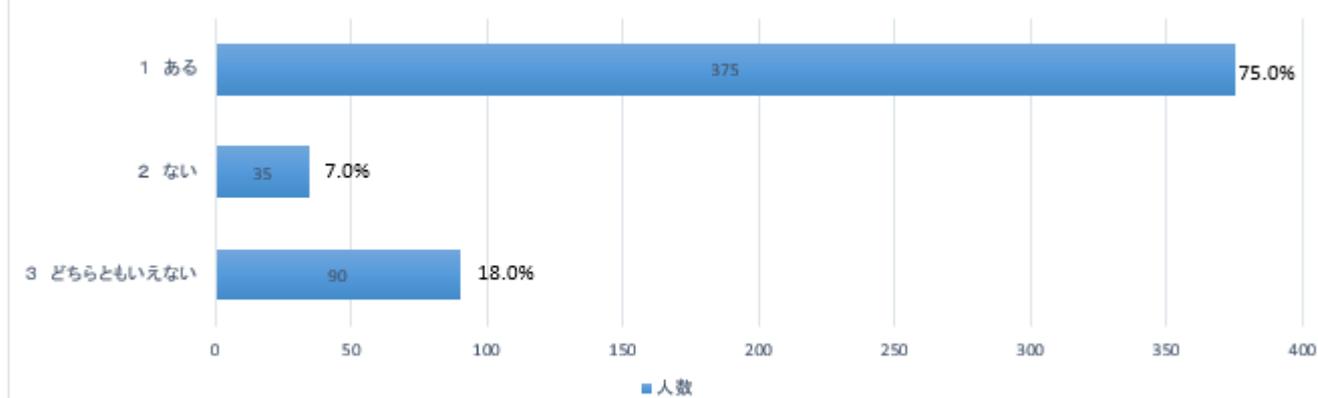
- (3) 目標指標を見直し(28指標 → 30指標)

<新たに追加した指標>

- 子どもの貧困対策計画の策定市町村数(R1年度:2市町村 → 目標 19市町村)
- 高校生の通学費助成の実施市町村数(R1年度:10市町村 → 目標 19市町村)
- 養育費の取決め割合(H30年度:母子家庭36.8%、父子家庭13.9% → 目標ともに50%)等

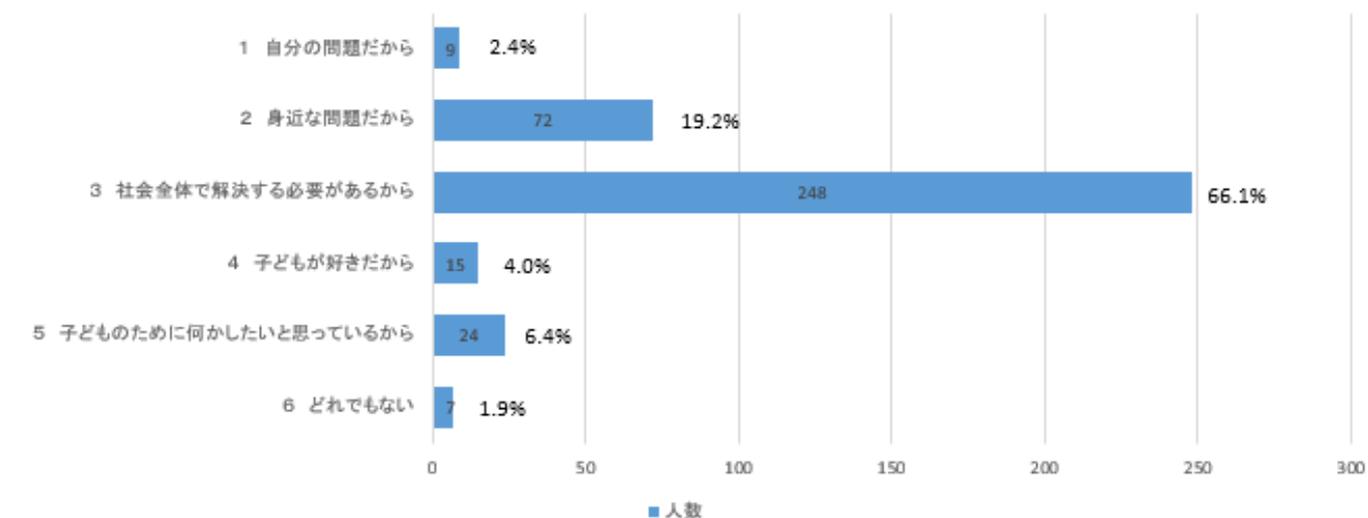
※ 別紙「鳥取県子どもの貧困対策推進計画 第二期(R2～R6)(案)について」もご覧ください。

【問1】「子どもの貧困」について、関心がありますか。



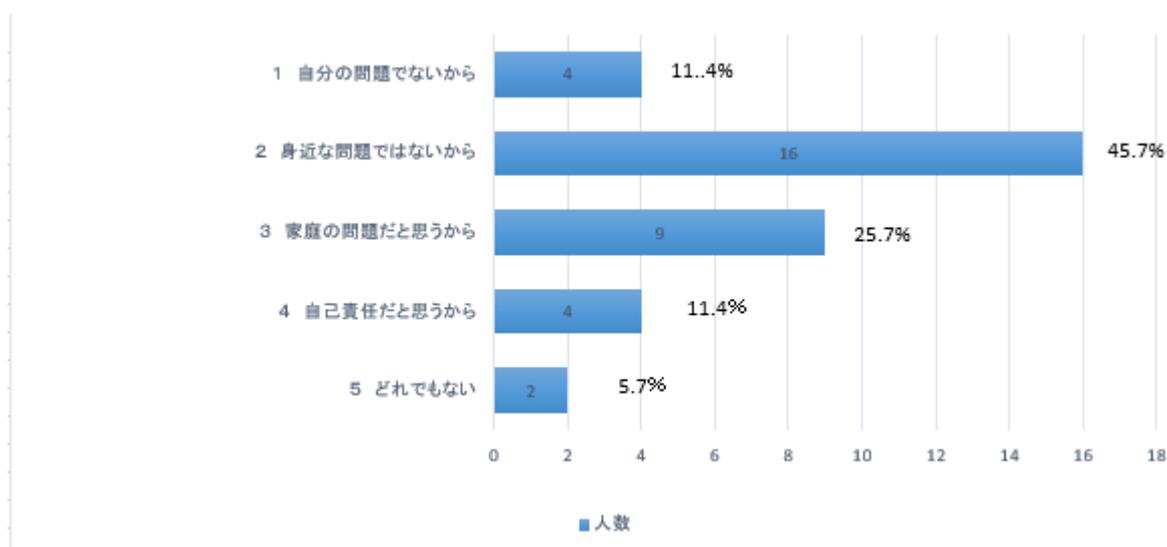
【問2】問1で「ある」と答えた方へお尋ねします。

関心がある理由について一番近いものを選んでください。(1つだけ選択)

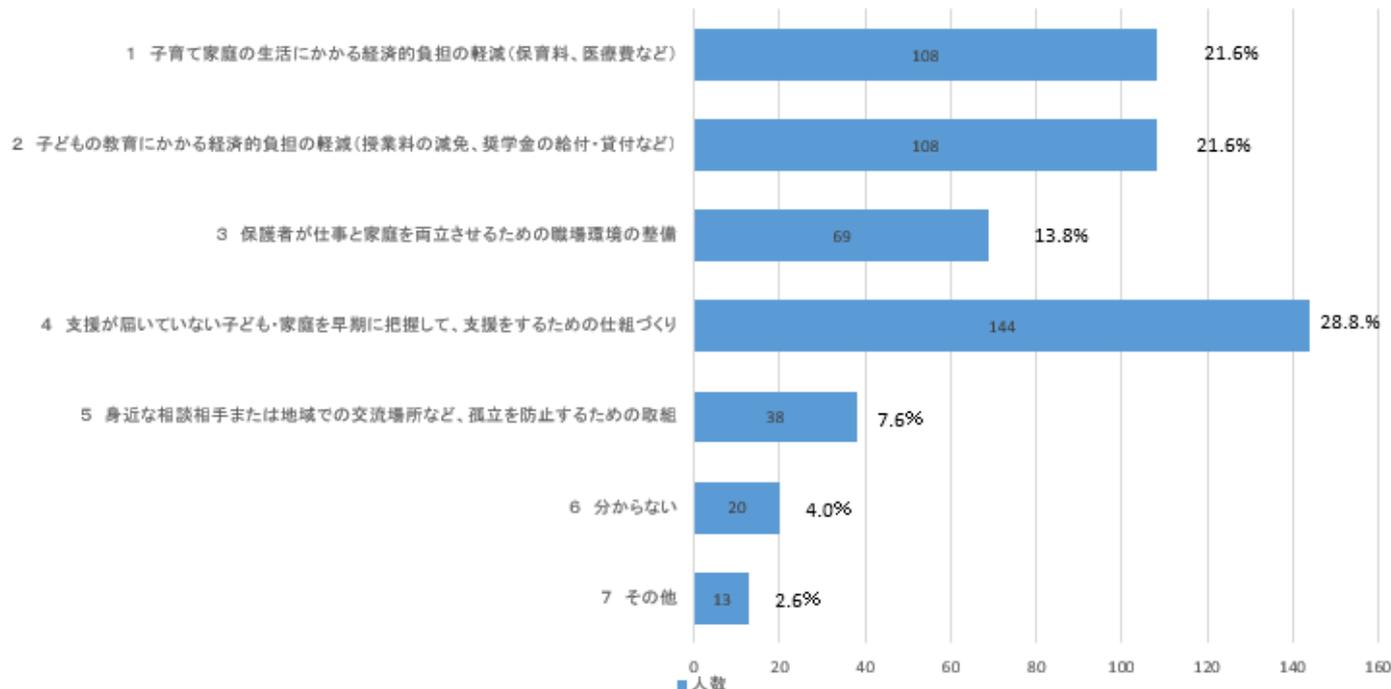


【問3】問1で「ない」と答えたかたへお尋ねします。

関心がない理由について一番近いものを選んでください。(1つだけ選択)



【問4】子どもの貧困対策として、一番重要であると考えられるものはどれですか。(1つだけ選択)



【問5】地域で取り組む活動のうち、子どもの貧困対策として最も有効と考えるもの。(1つだけ選択)

